

『魏志倭人伝』から辿る日本人のルーツ

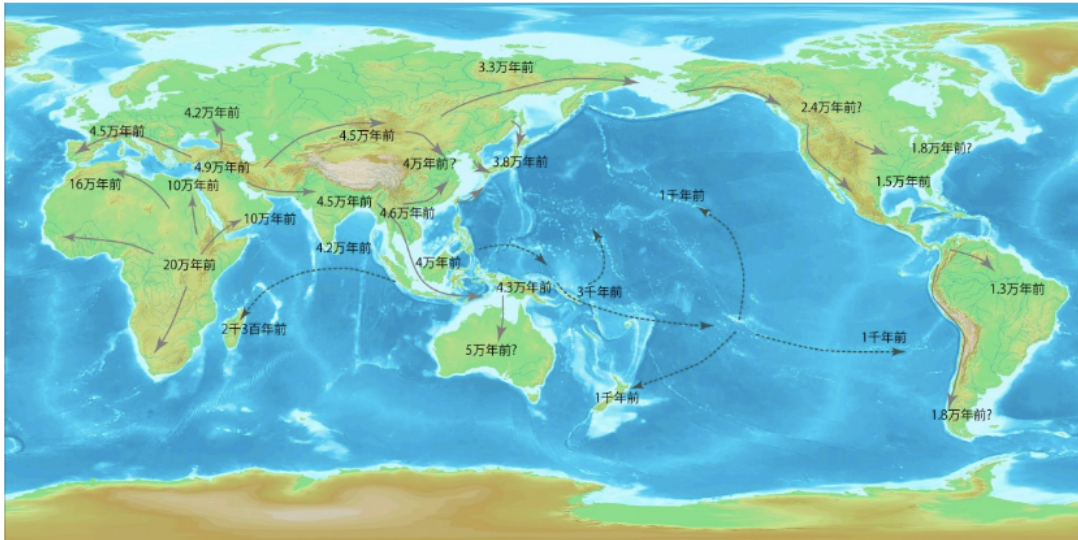


図1 ホモ・サピエンスの拡散

2017年にはじまったグレートジャーニープロジェクト。

私たちはどこからやってきて、どこへ向かうのか？

2017年は個人のルーツを辿るをテーマに、2018年は日本人のルーツを辿るをテーマに活動してきました。

日本人のルーツを辿る。これは、約4万年前にやってきたとされるホモ・サピエンス、私たち日本人の直接の祖先ですね、彼らがやってきたとされる3つのルートの到達点を巡っています。

3月は海のルート編として石垣島へ。6月は北方ルート編として稚内へ。

そして9月は南方ルート編として、九州を巡ります。九州の中でも玄界灘に面したエリアをスタート地点にします。

南方ルートといえは3つのルートのうち、およそ3万8千年前という、最も早くに私たちの祖先がやってきたルートであるとも言われています。

到達点である九州は、歴史の教科書でも学ぶこと、耳にすることが多く、『魏志倭人伝』や『後漢書東夷伝』に登場する地域であり、日本神話における天孫降臨の舞台とされる地域でもあり、また神武天皇の東征がはじまったとされる地域でもあります。

「漢委奴国王」の金印が見つかった志賀島もありますし、最近世界遺産に登録された「宗像・沖ノ島と関連遺跡群」は北九州にあります。



国宝 金印「漢委奴国王」

邪馬台国と大陸との交流を考えるに北九州は外すことはできませんし、元寇も豊臣秀吉の朝鮮出兵も、長崎の出島も、九州が日本と大陸との入口になっています。

3つのルートの中でも特に、歴史的にも、地理的にも、そして文化的にも、現在の私たちに近いルートが南方ルートです。

そこで、今回のグレートジャーニープロジェクトでは、飛行機でも新幹線でもバスでもアクセス便利な博多に集合し、玄界灘周辺からスタートしたいと思います。

なぜ、玄界灘周辺からはじめるのか？

私たちの祖先が南方ルートを通してやってきたのは3万8千年前頃と言われていますが、私たち日本人のことが記された歴史書もまた、南方ルートから、日本にやってきました。

厳密には、朝鮮半島から九州に入ってきた、という意味です。

そして「歴史書」とは何か？

それは前述した、『魏志倭人伝』や『後漢書東夷伝』です。中でも『魏志倭人伝』と聞いてパッと出てくるのは、志賀島で見つかった漢委奴国王の金印と、邪馬台国、卑弥呼、かと思います。



そこで、今回のグレートジャーニープロジェクトでは、私たちが一度は耳にする「邪馬台国」にスポットライトを当て、『魏志倭人伝』に記された邪馬台国への道を辿ってみることにしました。

本来であれば『魏志倭人伝』に記された通り、朝鮮半島の「帯方郡」から辿ってみたいと考えましたが、時期柄台風で空の便も海の便もどうなるかわかりません。

ですから、「帯方郡」から「狗邪韓国」、「対馬国」、「一大国（壱岐）」を経て辿り着く「末盧国」。玄界灘の鐘崎、宗像、また松浦、唐津がその「国家所在地」とされるのですが、この末盧国はどこにあったのか。

末盧国の場所を歩き、『魏志倭人伝』の記述と比べてみましょう。

未だに邪馬台国の場所は九州説もあれば畿内説もあり、また四国説も登場するなど、決着がついておりません。

『魏志倭人伝』の記述を実際に辿ることで、邪馬台国まで到達できるのか？

そんなロマンに心が動かされる人と旅をすることができればと思います。

こんなルートを予定しています

1泊2日のグレートジャーニーは福岡県の博多駅に集合し、レンタカーで福岡を巡り、最終目的地の大分へと移動します。

車内では日本人のルーツとして、邪馬台国に至る道についてのミニセミナーを開催し、他には日本の神社と海外の信仰を比較し、類似点を考えてみたいと企画しています。

1日目のゴールは末盧国があったとされる都市です。ここでホテルを押さえたので、玄界灘の景色を眺め、温泉につかり、夕食では語らしましょう。

2日目は『魏志倭人伝』の記述を頼りに、末盧国から伊都国、奴国、不弥国を辿ります。

最終目的地の大分では全国で約44,000社あると言われる神社にて、邪馬台国はどこにあったのか、またなぜこの神社は44,000社もあるのか、について一つの答えを、参加するメンバーで出したいと思います。

帰りの車内ではグレートジャーニーで感じたこと、個人個人のルーツについて語らい、深めていければ。

『魏志倭人伝』に記された邪馬台国へのルート

1. 倭の人々は帯方の東南にあたる大海の中に住んでいて、山や島によって国や村をつくっている。
2. 帯方郡より倭に行くには海岸に沿って航行し、七千余里で狗邪韓国。
3. 千余里にして対馬国。
4. 南に千余里進むと一大国(壹岐)。
5. 海をわたり千余里で末盧国。
6. 陸上を東南に五百里進むと伊都国。
7. 伊都国から東南に百里進めば奴国。
8. 奴国から東に百里進めば不弥国。
9. 不弥国から水行20日で投馬国。
10. 投馬国から水行10日、陸行1カ月で邪馬壹国。
11. 女王国の南には狗奴国。
12. 帯方郡より女王国に至る間の距離は一万二千余里。
13. 倭の地はちょうど会稽、東冶の東方の海上。
14. 女王国の東へ海を千余里渡ると国がある。
15. 南には朱儒国があり四千余里。
16. 朱儒国から船で東南へ1年で裸国、黒齒国に至る。
17. 倭人は遠く離れた海の島々にいて、或いは海で距てられ、或いは陸地続きになっていて、島々を経めぐると五千余里程。

これは、『魏志倭人伝』で邪馬台国への道が記されている箇所の抜き出しです。

参加するメンバーにお知らせしますが、あるジャーナリストが書いている文書から、引用しました。

今回のグレートジャーニーは、この記述を参照してルートを設計しています。

見どころをいくつか、紹介すると…

末盧国は、唐津か？それとも鐘崎か？

また一つの海を渡り、千余里行って末盧国に到着する。人家は4千余戸あり、山裾や海浜に沿って住んでいる。草木が繁茂して、[道を]進んで行っても前に行く人の姿を見ることができない。魚やアワビを捕ることが得意で、水の深浅に関係なく水中に潜ってはそれらを捕えている。

壱岐から1000余里だと佐世保か鐘崎が該当します。距離的に該当しませんが、末盧国の候補とされる唐津の場合、人家が4千余戸、も該当するとはいえません。

なぜなら唐津は開けており、もっと多くの人家があるとされる土地だからです。

また、魚やアワビをとる素潜り文化は松浦にはあった形跡は残っていないとされます。一方、唐津や鐘崎にはあり海人族の本拠地とされています。

距離的には佐世保か鐘崎、に絞られますが、判断材料は次の記述です。

1. 倭の人々は帯方の東南にあたる大海の中に住んでいて、山や島によって国や村をつくっている。

出発点である帯方郡からみて東南にあるのは…？？

志賀島で語られる「君が代」に隠された言葉

我が君は 千代にやちよに さざれ石の 巖となりて 苔のむすまで
あれはや あれこそは我君のめしのみふねかや
志賀の浜長きを見れば幾世経ぬらん
香椎路に向いたるあの吹上の浜千代に八千代に
今宵夜半につき給う御船こそ、たが御船になりける
あれはやあれこそや安曇の君のめしたまふ御船になりけるよ

壱岐と鐘崎の間にある志賀島には、海の神とされる綿津見神社の総本宮である志賀海神社があります。

この志賀海神社で例年、催される山誉め祭りでは、禰宜（ネギ、と読みます）と神主が行事を取り仕切り、「君が代」の句が語られます（画像の冒頭に注目）。

禰宜とは神主の世界では見習いであり、直階という階位を取得することで、禰宜になることができます。

禰宜に隠された言語、そして君が代をその言語に「翻訳」すると、どういう意味になるのか？

君が代の句が語られる舞台の志賀島で、答えを明らかにしたいと思います。

世界遺産「宗像大社」に隠された「暗号」？

世界遺産に登録された宗像大社の「宗像」もある言語に「翻訳」することで、姿が浮かび上がってきます。

なぜ、宗像大社は「道主貴」という、伊勢神宮と出雲大社にしかない「貴（ムチ、と呼びます）」の称号が与えられているのか？

宗像大社で、実際に肌で感じ、確かめてみましょう。

伊都国はどこにあったのか？

人家は千余戸ある。代々国王がいて、みな女王国に統属している。(ここは帯方)郡からの使者が倭と往来するときに常に駐まるところである。

人家の数から末盧国よりは小さく、そして女王国に統属していることから、邪馬台国の力が及んでいる国であり、また交通の要衝であることが想像できます。帯方郡の使者が日本へとやってくる時、常に駐まるとあるからです。

伊都国の候補として、北九州八幡に目をつけました。八幡製鉄所として近代以降は発達しましたが、それ以前は栄えていた場所ではありません。

しかし、注目すべきは八幡という地名、そして周辺にある地名です。

天神や幸神、神山町など、神への信仰に関連する地名が盛り沢山です。

方角的にも帯方郡から東南のエリアに含まれますから、北九州八幡を通過し、八幡という言葉も「翻訳」してみたいと思います。そして、祇園という地名も。

金印に記されていた奴国の場所は？

(伊都国から)東南に百里すすめば奴国に到着する。(長)官は兕馬觚(じまこ)、次(官)は卑奴母離(ヒナモリ)という。二万余戸の人家がある。

(後漢の光武帝の)建武中元2年(57)、倭の奴国(王が遣使して)貢物を奉り、朝賀した。使者は大夫と自称した。(奴国は)倭の最南端の国である。光武帝は(奴国王に)印綬を与えた。

金印が発見された志賀島は、『魏志倭人伝』の記述からすると、奴国の場所を定めるものではないとされています。人家の規模から、志賀島には入り切らない、ということなのでしょう。

例えば福岡市博物館のホームページには、

“これまで「墳墓説」「隠匿説」が唱えられ論争となった時期もありましたが、全く不可解。(もし今日まで委奴国王の金印が見つかっていなければ、誰も志賀島にあると予測できなかったでしょう。)”

とあります。

志賀島の場所も加味しているのか、奴国は現在の福岡市付近に存在していたと言う説が一般的です。

しかし今回のグレートジャーニーでは、奴国の候補地として、北九州八幡から東南方向に7キロほど進んだ場所にある、小倉南区の北方周辺エリアへと向かいます。

広大な平野部に恵まれた、二万余戸の人家も備えることができるエリアです。

日本の歴史的にも縁のある場所が北方周辺エリアで、皇位継承の流れが天武天皇系から天智天皇系へと戻るきっかけになった道鏡の失脚事件、宇佐八幡の神託で活躍した(?)和気清麻呂が脚を癒やしたとされる足立山もあります。

和氣清麻呂は平安京への遷都に関し、土地を見出して自ら造営大夫として遷都に尽力している人物でもあります。

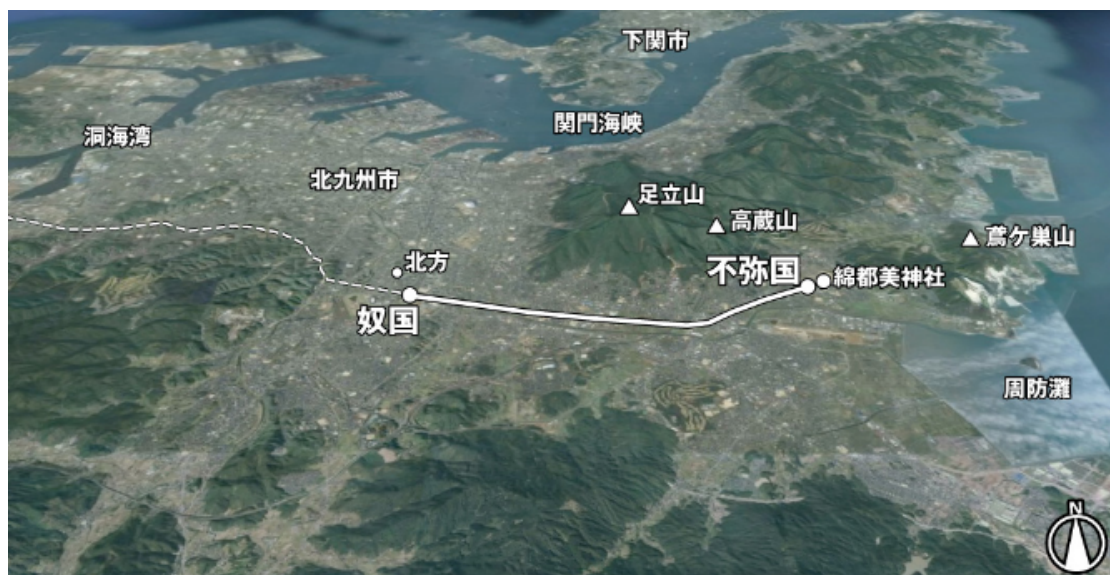
測量学の天才である和氣清麻呂がなぜ足立山の存在を重要視したのか。

ヒントはその「緯度」にあるのかもしれません。

不弥国の綿都美神社鳥居が指し示す目的地

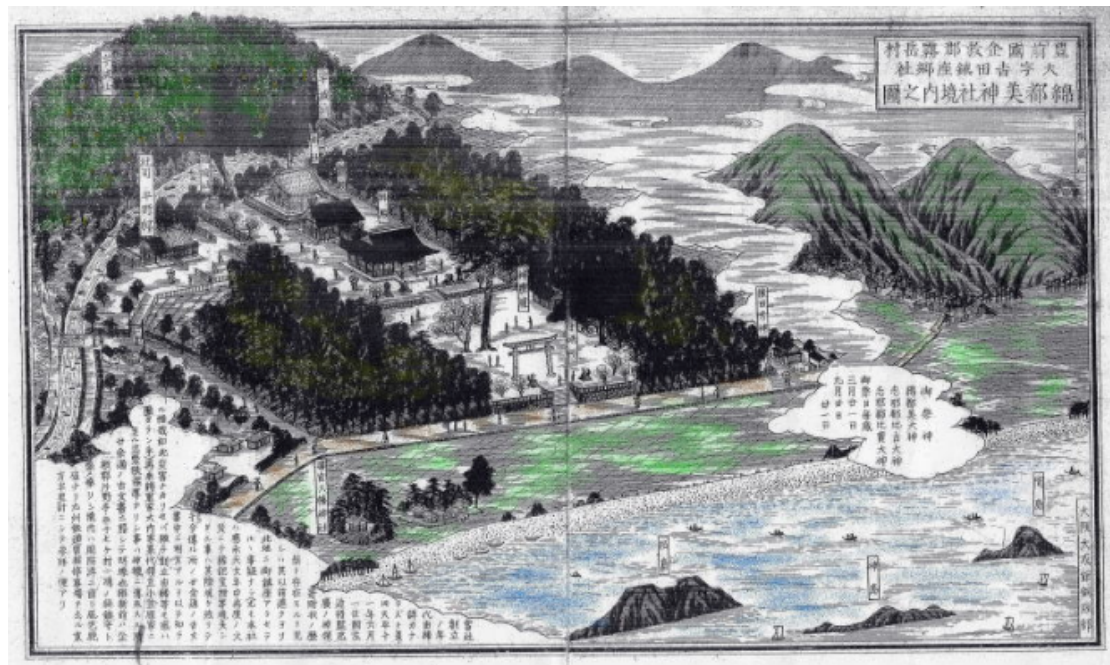
(奴国)から東に百里進めば不弥国に到達する。長官は多模といい、次(官)は卑奴母離という。千余戸の人家がある。

奴国から東に百里ということ、竹馬川河口の北側、高蔵山の麓に発展したエリアを、不弥国のあった場所として巡ってみます。



長官の名前である「多模」を別の言葉に置き換えることにも注目ですが、ここでは綿都美神社を訪れます。

今では生みから1.3キロほど離れていますが、明治時代までは神社の正面まで海岸線が迫っていたとされています。



本殿から鳥居を抜ける山道は、一直線に海に面していました。「ワタツミ」とは海の神ですから、海に面した神社のデザインそのものです。

対馬にも和多津見神社という、漢字は違えど同じ読みの神社があり、ここは5重の鳥居が一行に並んでいます。これらの鳥居の方角は、遥か彼方にある朝鮮半島の狗邪韓国の港を指していたとされています。

つまり5重の鳥居には、旅人を迎え入れるべく、渡来するものが目指す方角を示す道しるべの意味があり、旅人が訪れてくる方角を指していたとも言えます。

そして不弥国の綿都美神社の2重の鳥居も、同じ意味を持つと考えられます。

本殿から鳥居が並んでいる中心線を指す方角を確認すると、南東方向に137度。

地図上で綿都美神社から137度の方角に線を引くと、ある神社の存在が浮かび上がってきます。

邪馬台国に向かうに当たり、また邪馬台国から朝鮮半島へと向かうに当たり、人々を迎え入れてきた綿都美神社の鳥居から、重要な聖地の姿が見えてきます。

この聖地が今回のグレートジャーニーにおける、最終目的地です。

私たちは、どこからやってきたのか？

このまま邪馬台国の場所まで行きたいところですが、今回の最終目的地まで来ると邪馬台国があったとされる場所の存在もまた、浮かび上がってきます。

ですから邪馬台国への道を辿る旅はここまでとし、日本人のルーツから個人のルーツを再び深められればと思います。

物理的にはアフリカを出て、北方ルートや南方ルート、海のルートを辿ってやってきたとされますが、同時に文化的、精神的なルーツもまたあるのではないかと考えています。

『魏志倭人伝』を片手に、地名や建造物に秘められたメッセージを読み取り、日本人のルーツ、個人のルーツに目を向けることができれば。

日本人のルーツ、邪馬台国への道を辿る参加費は？

グレートジャーニーは1年で120万円の企画であり、1年に4回の旅を行います。

他、1ヶ月に一度のオンラインミーティングも開催しますから、単純に1回の旅あたり単価を算出することは難しいのです。

仮に4回の旅で割るとすると、1回あたり30万円です。

しかしオンラインミーティングは別にありますから、1回あたりの旅の参加費は、半額の15万円が妥当では、と考えています。

実は今回、宿泊用のホテルとして和室をすでに用意しており、参加するメンバーと共に語らう機会をすでに設けています。ですので、ホテル代はすでに支払っているようなものですから、その分リーズナブルにすることができます。

ですから5万円を割引し、10万円で募集します。ただし、2名限定、先着順です。

ここには、参加者に配布する資料、車内などで開催するミニセミナー、訪問施設の入場料（必要であれば）、レンタカー、ガソリンと高速費、ホテル、1日目の昼食と夕食、2日目の朝食と昼食を含みます。

2名を越えた場合は15万円になりますので、ご了承ください。

お申込みは[こちら](#)をクリックしてどうぞ。

今回のグレートジャーニーをまとめると

『魏志倭人伝』から辿る日本人のルーツ編として、今回のグレートジャーニーの内容をまとめてみました。

*日時：9月15日（土）10時AM～9月16日（日）18時まで

*集合場所：博多駅（詳細は参加する方にお知らせします）

*参加費：10万円（配布する資料費、車内などで開催するミニセミナー参加費、訪問施設の入場料、レンタカー費、ガソリンと高速費、ホテル費、1日目の昼食と夕食費、2日目の朝食と昼食費を含みます）

（他に必要なお金は、お土産代や移動中、ホテルの部屋での飲み物代やおやつ代。また集合・解散場所である博多駅往復交通費です）

*募集人数：2名

*持ち物：動きやすい服装、1泊2日分の着替え、筆記用具、常備薬

*募集期間：9月14日（金）23時まで

*参加費納入方法：銀行振込かクレジットカード決済（PayPalを利用します）

*申込み方法：[こちらを](#)クリックし、専用フォームから申し込みできます

私たちはどこへ向かうのか？

海のルートと北方ルートでは、物理的な移動に焦点を当ててきましたが、今回の南方ルートでは、文化的、精神的な伝承に焦点を当てた旅になります。

私たちの祖先はどこからやってきたのか？何を信仰し、何を生み出していったのか？

日本各地に8万社以上ある神社に、そのヒントが隠されているように思います。

私たちの祖先がやってきた南方ルートから、日本人の精神的、文化的なルーツも辿ることで、今一度私たち一人ひとりのルーツについても、車内で深められればと思います。

私たちはどこからやってきて、そしてどこへ向かっていくのか。

いい学び、いい気付き、そしていい出会いになれば幸いです。

お申込みは[こちらからも](#)することができます。

ありがとうございました！

グレートジャーニープロジェクト
小野

P.S.

今回のグレートジャーニーでは参加するメンバーと和室に宿泊します。とあるリゾートホテルにある和室でして、温泉も楽しむことができます。

同じ空間で同じ釜の飯をいただき、プライベートや仕事などの話にも花を咲かすことができればと思います。

新しい発想、ブレイクスルーの機会にもなれば、幸いです。